

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 4590200095 | | |
| 法人名 | 医療法人 爽林会 | | |
| 事業所名 | グループホームまごころ | | |
| 所在地 | 宮崎県都城市高城町穂満坊3213-2 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年12月15日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年3月6日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topiigyosyo_index=true |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階 |
| 訪問調査日 | 令和5年1月25日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内に、広い畑があり季節の野菜を作り入所者の皆さんも楽しみにされています。また、桜・コスモス・椿など開花の時期は、庭に出てお花見会を開きおやつを食べます。ホール内は、毎月壁画や飾りを入所者の方々と制作します。手先を使い、色の配置など皆で考えてとても明るく楽しい気分になります。スタッフが元気をもらっています。また、レクリエーションを計画し参加時の一生懸命な姿や、優しい表情はムービーで録画しSNSでご家族へ送信し大変喜んで頂いています。介護が重症になっても臥床したまま入浴ができるように特浴槽を設置し入所者様も無理なく入浴ができます。台風などの災害時は併設する診療所の2階へ避難でき安全に過ごすことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

所在地の地域出身の利用者、職員が多いことなど地域のご縁を活かしながら、敷地内の経営母体の医療機関等と協力、連携して、最期まで住み慣れた地域のホームで過ごせるよう支援体制を整えている。身体機能が低下したり、終末期のことも考えて、特浴の導入等設備投資も行われ、利用者や働く人のことを考えた運営に努めている。コロナ禍での感染予防対策を徹底するとともに、面会できないことによる馴染みの人との関係が途切れないように、タブレットを利用して、マスクなしの顔が見られるビデオ通話による面会を可能としたり、状況に応じた対応ができるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 玄関とホールにを掲げ「安らぎのある生活」を理念に心を通わせるケアに取り組んでいる。 | 地域に縁のある利用者、職員が多いことで、地域に密着した事業所としての意識が高く、設立時に作成された理念を大切に、意識してケアを実践するよう取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍にて地域の行事もすべて中止になり交流の機会が減少したが、距離をとりながら地域の方と交流をとるよう努めている。 | コロナ禍で、加入している公民館の行事等が中止になり、対面で交流することはできなくなっているが、地域の方が、畑に野菜を植えて手入れをする様子を利用者が見て、野菜の成長や収穫を楽しめるような交流が行われている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 訪問ボランティア(美容師)の方が民生委員でもあり、現在の状況を伝え、また、ご意見を頂いている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回開催している。現在は、コロナ禍の為書面での開催となっている。日常生活や防災訓練など写真を取り入れて報告している。ご意見など返信して頂きサービス向上に努めている。 | 利用者家族、以前利用された方の家族、公民館長に毎回参加してもらい、状況を報告するとともに、参加者から感想、意見を返信してもらっている。返信された内容は、報告書にまとめ共有するよう取り組んでいる。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議時や研修時に現在の状況や感染対策の助言をいただいている。 | 事業運営に必要な事項等は、市担当から連絡をもらい、事業所でわからないことがあるときは、支所に出向いて担当に直接聞くなど、日常的な連携が図られるよう努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 年2回の研修を行い情報の共有や拘束のないケアに取り組んでいる。日頃より入所者の状態をご家族に報告し必要時には同意を頂くようにしている。 | 年に2回は身体拘束についての研修を行うようしており、外部研修に参加した時は、職員への伝達研修を行い、身体拘束をしないケアの理解を深めるよう取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止の研修に参加し、共通の認識を持ちケアをしている。お薬もかかりつけ医や専門医と連携を図り最小限度に抑えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在利用されている方はいらっしゃいませんが、必要時には支援できるように心がけている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所前には必ず見学して頂き説明をしている。契約時には再度丁寧な説明を行っている。不明な点は随時対応するように努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族へSNSで状況報告を密に行い、ご家族の要望は迅速に対応し、またスタッフ全員と共有している。 | 通信機器等を使って、家族に利用者の状況を伝えるとともに、要望等が聞けるよう取り組んでいる。運動やマッサージの希望が寄せられて、動画配信で手足の運動の映像を利用した運動を導入するなど支援内容に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員共通のノートを作り、入所者様に関する情報の把握やケアに関する提案も行い、意見の交換を随時行っている。 | 職員ノートの内容や職員から直接聞いた要望等は、管理者から施設長に相談し解決する体制がとられている。職員からSNSで動画を送る提案が出されたときは、すぐにタブレットを購入しビデオ通話での面会が実現している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は、管理者とともに、職員の話に耳を傾け話しやすい環境を作るように心掛けている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修は、偏らず順次参加できるように配慮している。研修後は、報告と共に資料を閲覧できるようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市の主催の研修に参加している。コロナ禍の為WEBでの会議が多く交流は難しい状態にある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者の方がホーム内でどのような生活を望んでいるのか、どのような不安を抱えているのか、ゆっくり話す機会を設けている。うまく言葉で表現できない利用者の方には適切に気持ちを代弁し安心できる関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 相談時から入所後も対話にてご家族の要望意見を聞きまた、ホームからも経験からの意見なども伝えながら気軽に相談できる関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時より利用者の方の身体的、精神的状態、ご家族の困っていることの把握に努め利用者の方ご家族が必要としているサービスが受けられる支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 手伝いをしてくださる事に感謝の気持ちを言葉にしたり利用者の方から介護に対する感謝の言葉を頂いたりすることで喜びを感じたり、スタッフは利用者様と、共に支え合う関係である意識を持って支援している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日頃より利用者の方の生活の様子、心身の状態をご家族に報告している。そうする事により心身の変化など起きた場合、速やかに相談し協力してもらう事ができ、スタッフもご家族と共に利用者の方を支えている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍で、中々馴染みの人や場所との関係継続が難しいが、テレビ電話を利用するなどし、定期的にご家族と話す機会を設けている。 | コロナ禍で馴染みの人や場との関係継続が困難になっているが、ビデオ通話での面会や日常の会話で馴染みの場所や地域のことを話題にして、大切にしてきた思いが途切れないように支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | スタッフは、一人ひとりの性格、人間関係、心身の状態を把握し利用者の方が孤立しないよう配慮している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ホームで看取った利用者様のご家族が定期的に訪ねてこられ、近況を話されたり利用者の好物を差し入れて下さったり、育てたプランターの花を持ってこられ玄関に飾って下さる。交流の場や意見をうかがえる良い機会となっている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | アセスメントを細かくとることで本人の生活歴を知り、暮らしの意向について把握するヒントにしている。本人から直接意向をお伺いすることが難しい段階では家族からのお話を参考にしている、 | 言葉で伝えることができない方には、家族に聞いた情報や声掛けをして表情等で把握するよう努めている。鏡を見て髪カットを希望される方には、ボランティアの美容師さんに依頼し希望に添えるよう支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時、入所後継続的に生活歴やなじみの暮らし方、生活環境について話を伺い、把握に努めている。ふと、本人の話に出た名前や話題を家族に伝え情報をももらうこともある。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個人の生活パターンやペースに配慮しつつ、心身の状態を細やかに観察把握しながら、有する力等の現状把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | スタッフに意見や状態を聞きながら、ケアについて検討している。本人、家族の生活の希望について意見をいただき反映している。 | 日々の介護記録から状態の変化を見たり、モニタリングやスタッフ会議で話し合ってケアについて検討している。家族には、計画原案を届け電話で説明し、意見や希望を聞き計画に反映させるよう取り組んでいる。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の記録を、その時の状態がわかりやすいように具体的に記録し、状態悪化に柔軟対応できるようにし、状態変化にはラインを引き、振り返りやモニタリングに活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 必要なニーズに対し柔軟に対応できるよう、地域サービス、介護タクシーや訪問カットの利用を活用している。 | | |

宮崎県都城市 グループホーム「まごころ」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近隣住民や地元消防団と連携し台風などの災害時巡回や必要時に対応して下さる関係作りを行っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医と医療連携体制にあり必要時には、専門医への紹介も可能である。迅速な対応、適切な医療を受けられる体制がある。 | かかりつけ医との連携のもと、日常的な健康管理や必要時の専門医への紹介など迅速かつ適切な医療を受けられる体制が整えられている。専門医への受診の際は職員が同行している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師が常勤し、夜間もオンコール体制である。急変時も速やかに対応できる体制を整えている。他2名准看護師を配置している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 管理者・ケアマネの2名で入退院時の連携体制をとっている。入院時は、速やかな情報提供に努めている。退院時は、退院前から情報共有に努めスムーズに生活に移行できるよう努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時より重症化した場合や、看取りについて文章化し、契約に説明同意を得ている。状態変化時には、その都度ご家族への説明を行い、必要時には、医師からの説明機会を設けインフォームドコンセントを得よう努めている。 | 入居前に十分な説明を行い、重度化した際の方針等について書面での同意を得るほか、その状態に応じて随時、本人や家族の意向を重視し、終末期における方向性を検討する支援を行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時対応については、看取り期や、体調不良者で予想される際にはこまめに確認を行う。定期的に対応、連絡手順について業務会議などで確認を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 風水害を想定した防災訓練を行い、備蓄の確認、対応手順について確認を行っている。また、避難時の反省と次回への対応確認を行うようにしている。多雨時には地域消防団の方が巡回して下さるよう連携を図っている。 | 火災や地震・水害について年2回、日中や夜間を想定し避難訓練を実施している。実施の際は地域消防団や地域住民の参加は感染症対策のため控えているが、災害等発生時の協力体制が整えられている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ご家族の了承を得て呼び慣れたお名前前で声かけしている。 | 本人が慣れ親しんだ呼称での声掛けや、排泄や入浴介護など、個人に合わせたプライバシーの確保が行えている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 分かりやすい言葉を使い、時にはジェスチャーも交えて自己決定を促している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりに合わせペースを大切にしている。ご本人の希望も聞きながら支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 居室担当を中心に衣替えを行っている。ご本人の好きな色の洋服を着用してもらっている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | できる方には、テーブルふきやお盆拭きをしていただいている。畑の収穫も楽しんでいただいている。 | 事業所敷地内での菜園で収穫した野菜などを調理に活用している。準備等においても利用者個人の能力に応じて片づけなどを行っている。職員と利用者は一緒に食事を行っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 管理栄養士による献立を元に栄養バランスが取れるようにしている。水分チェックも行っている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | うがい薬も使用し口臭予防や歯槽膿漏悪化予防に努めている。 | | |

宮崎県都城市 グループホーム「まごころ」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターン行動を観察し誘導している。 | カンファレンスなどを通じて利用者個別の排泄のパターンやオムツ類の使用の見直しを行えるようにケアの内容をプランに位置づけ取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | テレビ体操で便秘予防を行っている。廊下歩行促している。モチベーションを保つ為に歩行カードを取り入れている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 状態に合わせて一般浴・特浴を週2回実施している。重度の方も特浴で浴槽に浸かる事ができ、喜ばれている。職員の負担軽減にもなっている。 | 週2回の入浴を基本に、個別の希望の順番には可能な限り対応を行っている。入浴の拒否などについても無理強いすることなく、本人のペースに合わせて入浴できるように支援を行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 状態に応じて午睡したり休息をとれるように支援している。安眠できる様に日中の活動量を増やすよう工夫している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤情報をファイルしいつでもわかるようにしている。変更があれば全スタッフに伝わるようにしている。異常時は看護師に報告相談できる体制を整えている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの生活歴や役割を生かし作業を取り入れている。畑作業や針仕事で気分転換している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍により外出が難しいが状況がよくなれば、外出支援ができる状況である。パンの移動販売を取り入れ、楽しんでもらっている。 | コロナ禍において、積極的な外出は行えていないが、代替案として移動販売などを通じて外部との関わりを持つなど、コロナ禍における創意工夫を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人の意向をくみ、お金を持っていることで安心できる方には、ご家族の許可をいただき、ご本人に持っていていただいている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 遠方におられる家族からお手紙や送りが届いたときには電話でお話をされたりリモートで顔みてお話をされ状況報告などをして安心して頂けるよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールの広い窓から草花や畑が見渡せ太陽の陽がよく入り居心地のよい空間となっている。閉塞感のないゆったりくつろげる空間である。ベランダ、各出入り口にはスロープが設置してあり安全に出かけられるようになっている。 | 非常に明るく広々としたつくりであり、家庭的な雰囲気があるほか、四季に合わせた花々の絵や利用者の作品が展示しており、心地よく過ごせる空間が作られている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファの配置、クッションなどを置きそれぞれが好きな場所でゆっくりと心地良く過ごせるような環境づくりをしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には、ご本人が安心できるようにご家族の写真や、メッセージなどを貼り安心して過ごせるような環境づくりをしている。利用者が慣れ親しんだ家財や家族の写真、ご自分で制作した作品などを飾り安心して生活出来る用に工夫している。 | 利用者個人が慣れ親しんだ家財を自室におくことや写真を飾ることや、メッセージを貼ることで慣れ親しんだ環境を作り、落ち着いた生活を送れる工夫がされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレやお部屋が分からず迷ってしまう方には、分かりやすく表記したり目印を作ったり、声かけを行っている。 | | |